

社会科学習指導案

日時 令和2年11月10日(火) 第5校時

対象

会場



1 単元(題材)名(教科書、副教材)

「個人の尊重と日本国憲法」 (中学校社会 公民的分野 日本文教出版)

2 単元(題材)の指導目標

- ・人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解することができる。
- ・我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について考察することができる。
- ・日本国憲法の基本原則を具体的な生活との関わりから理解することができる。

3 単元(題材)の評価規準

観点	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 技能	エ 知識・理解
単元の評価規準	・身近な事例を通して、民主主義や法や法に基づく政治と基本的人権を中心とした人間の尊重についての考え方に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、民主的な社会生活について考えようとしている。	・日本国憲法によって国民の自由と権利が守られ、基本的人権の保障とその課題について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	・民主主義や人間の尊重についての考え方と法に関する様々な資料の中から、学習に役立つ情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめる技能を身に付けている。	・人間の尊重の考え方について基本的人権を中心に理解し、その知識を身につけている。 ・日本国憲法の基本原則を理解し、その知識を身に付けている。
学習活動に即した具体的な評価規準	・日常の具体的な事例を通して、人間尊重についての考え方と法に対する関心を高め、それらを意欲的に追求し民主的な社会生活について考えようとしている。	・日常の具体的な事例を通して、民主的な社会生活のあり方について様々な考え方を踏まえて攻勢に判断することができる。	・人間尊重の考え方と法に関するさまざまな資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりすることができる。	・事例検討などを通して、法の意義と法に基づく政治の大切さについて理解し、その知識を身に付けることができる。

4 単元(題材)の指導計画と評価計画 (8時間扱い)

	学習活動・学習内容	学習活動に即した具体的な評価規準 (評価方法)
第1時	憲法に規定されている自由とはどのようなものかを考える。	「人権」という概念が生まれた背景を理解する。(ワークシート分析)
第2時	自由権がどこまで保障されるのかという事を考え、発表する。	憲法に規定されている自由にはどのようなものがあるか。また、どのような場合に自由が制限されるのかを記述すできる。
第3時	法の下での平等について、憲法と法律で保障されている平等権の内容をまとめている。	人権の保障についての取組について、理解し、その知識を身に付けている。(ワークシート分析)
第4時	社会権の成立過程を調べ、憲法に保障されている社会権の内容を理解する。	社会権の内容と多種の事例や判例との関連性を多面的・多角的に考察し、表現している。(ワークシート分析)
第5時	人権の広がりの様子を調べ、人格権と自己決定権やインターネット・携帯電話とのかかわりを考える。	新しい人権の内容やインターネット・携帯電話と人格権の関連を意欲的に追求しようとしている。(ワークシート分析)
第6時	参政権と請求権の内容をまとめ、基本的人権を守るためにどのように保障されているかを発表する。	参政権と請求権の具体的な内容を、資料やニュースなどを活用し、まとめている。(ワークシート分析)
第7時	子どもや女性の権利を守る国際的な取り決めを調べ、まとめ、日本との関連を整理しながら発表する。	子どもや女性の権利を守る国際的な取り決めを意欲的にまとめ、調べようとしている。(ワークシート分析)

第8時 (本時)	私たちが果たさなければならない責任と義務の内容を考えながら、公共の福祉がもつ内容と留意点をまとめ、発表する。	責任と義務の内容、公共の福祉の内容と留意点を、様々な資料を活用し、まとめている。(ワークシート分析)
-------------	--	--

5 指導に当たって

・指導方法の工夫

学習課題について主体的に生徒が取り組めるように、具体的事例をクイズ形式で出題して、憲法に保障される自由とはどのような権利かを考察させたり、過去の判例を基に対立する人権についてディベート型の話し合い活動に取り組んだりする。

6 本時(全8時間中の8時間目)

(1) 本時のねらい

憲法に保障されている自由と保障されない自由の違いについて話し合う活動を通して、公共の福祉に反する自由は認められないことを理解する。また、基本的人権を保障するために守るべき義務が存在することを理解する。

(2) 本時の展開

時間	学 習 活 動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準(評価方法)
導入 (5分)	○「自由」について想起する。 ・束縛されない自由 ・友達と遊ぶ自由 ・寝る自由 ・食べる自由	○学習課題への関心を高めさせるために「私たちにどのような自由があるか」と問う。その際、生徒が答えやすいように「〇〇な(の)自由」というキーワードで答えさせる。 ○学習課題へと導くために、「自由は日本国憲法で保障されているものが多いが保障されていないものもある。」とおさえる。	
展開 (35分)	<p>めあて 憲法で保障されている自由とは、どのようなものなのか考え、まとめ、発表しよう。</p> <p>○具体的な事例が、憲法でどのように保障されているかを「○」「×」で判断する。 ○憲法で自由権とは、どのように保障されているかを考える。 ・精神活動の自由 ・生命・身体の自由 ・経済活動の自由 ○なぜ、憲法で保障されない自由があるのかを考える。 ・公共の福祉に反するから。 ・他者の人権を侵害するから。</p>	<p>○憲法の中で具体的な事例がどのように保障されているかを考えさせるために、「○」「×」で判断させる。 ○テンポ良く進めるために教師が具体的な事例の8問の正答を「○」「×」で示し、生徒に「○」はパー、「×」はグーで挙手させる。 【具体例同定】 憲法で保障されている自由権を定義に則して具体例を説明させ、3つの種類のどの自由権に含まれるのかを考えさせる。 【推論】 自由権で学習した内容と本時の公共の福祉の関係を照らし合わせ、どこまでの自由が認められるのかを考えさせる。 ○より多角的に考えさせるために、班で話し合わせる。その際、班活動の手順などを確認させるなどし、話し合いをスムーズに進めさせる。</p>	イ 憲法の中で保障される自由権には、どのようなものがあるか。自由を制限する理由についてワークシートに記述することができる。
まとめ (5分)	○ワークシート、映像資料(NHK for school)を通して本時を振り返る。	○本時のねらいに対して、まとめを書かせる。その際、数人のまとめや振り返りを発表させる。	